

## まちかどの猫 ～写真家 KIKI さんをむかえて～

「K I K I トークショー」



日 時：2016年8月14日（日） 午後2時～3時

会 場：太田市駅なか文化館 ギャラリー

出 演：KIKI （モデル、写真家）

岡田勉（スパイラル／株式会社ワコールアートセンター シニアキュレーター）

司 会：小金沢 智（当館学芸員）

..... 出演者 プロフィール .....

### KIKI （キキ）

東京都出身。モデル、写真家。

武蔵野美術大学造形学部建築学科卒。

雑誌をはじめ広告、テレビ出演、映画などで活躍。エッセイなどの執筆も手掛け、旅や登山をテーマにしたフォトエッセイ『美しい山を旅して』（平凡社）など多数の著書がある。ドイツのカメラブランド、ライカの会報誌であるライカスタイルマガジンにて撮りおろしの写真とエッセイを担当。近年では自身の写真展『PRISMA』シリーズを発表、また芸術祭に作家・審査員として参加するなど多方面で活動している。

### 岡田 勉（おかだ つとむ）

東京都出身。

スパイラル／株式会社ワコールアートセンター シニアキュレーター

武蔵野美術大学造形学部 工芸工業デザイン学科卒。

ワコールアートセンターに入社後、スパイラルの学芸員（のちにキュレーター）となる。

スパイラル内でのコンテンポラリーアートの展示の他、2005年の愛・地球博の公式アートプログラム事業のキュレーターや、横浜港の休憩所「象の鼻テラス」のアートディレクターなど、外部施設・企業・公共団体のための企画展やパブリックアートの企画・プロデュースも数多く手がける。

## 主催者挨拶

岡田：今回の催しの趣旨は、この冬北口に開館する新しい美術館・図書館の開館を記念したもので、KIKIさんに太田で撮り下ろしていただいた写真と、市民のみなさま方から公募いただいた猫の写真を、まちかど美術館で展示しています。これからオープンしようとしている美術館・図書館が、どういった施設になるのかを、学芸員の小金沢から簡単にご説明をしていただきます。その後、KIKIさんにお話しをしていただきますので、短い時間ですけれどもお付き合いください。小金沢さんをお願いします。

小金沢：学芸員の小金沢と申します。今日はお越しいたごきまして、ありがとうございます。私の方から、美術館・図書館の簡単な概要について、先にご紹介をさせていただきたいと思います。



## 太田市美術館・図書館の概要

### <美術館・図書館のイメージ>

小金沢：まずご紹介いたしますのが、美術館・図書館のイメージ図です。今まさに北口で建てておりますので、外からご覧になったという方もいらっしゃるかもしれません。こういった3階建ての建物でございまして、それぞれの階に美術館としての展示室と図書館としての閲覧のスペースがありまして、それぞれの空間がゆるやかに重なり合うような建築になっています。建築家は、現在40代半ばの、気鋭の建築家である平田晃久さんです。ここからも歩いてすぐですので、是非お時間ありましたら、終わった後に見ていただければと思っております。



### <美術館・図書館の整備の目的>

小金沢：次に、この美術館・図書館の整備の目的ですけれども、太田駅周辺、中心市街地の賑わいを創出するということを目指しています。美術館・図書館を組み合わせることで、事業を展開していくことで、周辺地域の文化度の向上や、中心市街地の再生と回遊性の創出、そういった様々な地域の課題を解決し、太田駅周辺の人やモノやコトの「賑わい」を再生したいと考えております。

### <美術館・図書館の基本理念>

小金沢：昨年度、美術館・図書館の基本理念を定めまして、私どもはそれを「創造的太田人」と呼んでおります。「まちに創造性をもたらす、知と感性のプラットフォーム」として、この美術館・図書館を運営していきたいと考えています。太田は「ものづくり」のまちとして発展しておりますが、「ものづくり」を通して育まれてきたみなさま方の創造性を、これからの「まちづくり」に活かしていくような、そういった拠点を目指しています。そして、それが美術館・図書館の中だけではなく、まちに広がっていく、中心市街地に賑わいをもたらすようなプロジェクトを多彩に展開していきたいと考えております。

## <美術館・図書館の事業の目的>

小金沢：太田市の過去・現在・未来を見つめ、「過去」としては、これまでの太田市に蓄積されてきた創造の遺伝子の収集と調査研究。「現在」としては、世界の最先端の感性やクリエイティビティに触れる機会の創出。「未来」としては、これからの未来を担う人材やプロジェクトを育成。このような考え方で計画しています。

### 太田フォトスケッチの概要

小金沢：今回の太田フォトスケッチは「カメラを通して、太田のまちを新たな視点で再発見する」ことが目的です。今回は「まちかどの猫」という猫がテーマの展覧会ですが、こうして市民のみなさまが撮影ないしは鑑賞する機会をつくることで、常日頃住んでいる太田のまちを新鮮な視点で見つめる、再発見する機会になればと、今後もテーマを変えて継続的な実施を予定しております。今回の公募展では、太田市内のみなさまから88点、太田市外のみなさまから8点、合計94点のご応募をいただきました。

その94点と、今回 KIKI さんに撮りおろしていただいた太田市内の写真13点を、現在まちかど美術館本町ギャラリーに展示しています。私からの施設と展覧会の説明はここまでにごさせてくださり、KIKI さんのお話をうかがっていきたくと思います。岡田さん、進行をお願いいたします。

### KIKI トークショー

岡田：これからは KIKI さんからお話しを伺いたく思います。改めまして、フォトグラファーで、モデルで、女優で、非常にマルチな活動をされている KIKI さんです。

KIKI：KIKI です、みなさんこんにちは。よろしくお願ひします。

岡田：よろしくお願ひします。画面上にプロフィールがたくさん出ていますがけれども、様々な雑誌等々でお姿拝見する事が多くて、それ以外にアーティストとしての活動も実は随分前から取り組まれていますね。2010年が最初の展覧会ですか？

KIKI：そうですね。もともとコニカミノルタさんのウェブサイト連載をしていて、その時は写真をメインにした連載だったのですけれど、それを展覧会で再現したのが最初ですね。

「Sense of Wonder」というタイトルで、このときは教会建築や、ちょっとした普段の中の気づきをテーマにできた写真を展示しました。



## <質問>

### — なぜ写真家になったのですか

岡田：もともと写真がお好きだったのですか？

KIKI：そうですね。自分で意識して今日から写真家と名乗るぞと思ったときはなくて、やっぱり写真が好きで、見るのが好きで、自分で撮るのも好きで、表現方法のひとつです。いろいろある肩書きの中の一つとして自分の中に写真家という顔を持っているかなと。

岡田：普段は自分が被写体として撮られる側ですよ。それが、ある日撮る側になっていく感じですね。

KIKI：そうですね。ちょっとまた違う回路というのかな。自分が撮られる写真と、自分が撮る写真とちょっと違う方向から交わるのかなと思います。

### — いつから写真を撮り始めましたか

KIKI：モデルをはじめ、撮られるようになったのが学生のころからです。そのときに私は建築を勉強して、建築を勉強するという目線で建物を撮るようになったのが最初でした。

岡田：もともとは建築、建物に関心があったっていう事ですか？

KIKI：そうですね。建物の魅力、良いとされる場所って何だろうと探すため、記録のために写真を撮り始めたのが最初ですね。

岡田：建築家にはならず、モデルさんになってみたり、多彩に活動されていますが、建築にはもう関心がなくなったのですか？

KIKI：いや、今でも建築にはすごく興味があって、建築家にならなくても建築に携わっていくことはできると思っています。今だと、建築を私の場合だったらどういう目線で捉えているかというのを写真にして表現したり、文章にして書いたり。また、色々見て蓄えてから、もし作るのであれば作りたいなと思って、今はまだ見て周りたくて、そう思っています。

### — 写真の魅力は何ですか

岡田：写真にきっと魅了されて、ずっと撮り続けてらっしゃるのだと思いますが、写真の魅力ってKIKIさんにとってどういうものですか？

KIKI：学生のころに建築を色々撮ってまわって、自分の写真と、いわゆる建築雑誌などに載っている建築写真と呼ばれるものとの間に差があると気付いて、やっぱり建築雑誌に載っている建築の写真は分かりやすい。どういう建物か、空間であるかっていうのが見えてきますけど、私の場合は、自分が良いと思った場所をおそらく撮っていて空間として想像しにくい。でもそれも表現の一つだなんて気付いたのです。

だから、写真の魅力っていうのは、見る側にも何が好きかとか、どの写真がよいかってそれぞれだと思うし、撮る人もそれぞれの視点がある。その視点を様々なところで持てるっていうのが写真の魅力なんじゃないかなって。

### — 写真を撮影するとき、どのようにテーマを考えますか

岡田：あとで今回 KIKI さんが撮影された、今回展覧会に出していない写真もいくつかご覧いただきますが、やっぱり独特な視点というか、光の捉え方が KIKI さんのようになって思うものが多いですね。

今回太田のまちに来ていただいて、たくさん写真を撮っていただきましたが、出来上がった写真というのは非常に KIKI さんの、公募されたみなさんの写真と随分違いがありますね。撮影しようとする時に気を引かれ、被写体にしようと思うもの、これを撮ろうと思うモチベーションになるものって、どういうものなのでしょうか。

KIKI：難しいですね。テーマを与えられて撮っている場合もあって、今回も「まちかどの猫」というタイトルが先に決まっていた。猫を探そうとして撮ったわけではなく、「まちかど」という響きとか、普段こちらは意識しない、向こうも主張していない、そういう場所に気付けたらいいなと思って、太田のまちを周っていました。

それで、商店街を歩いていると、気になるものがたくさん出てきました。ちょっと隙間に入っていくとどんな風景があるのかなって、入りこんで行ったところにたくさん猫がいた。だから猫好きな方は是非後で、散策されてみて欲しいです。だから、テーマというのも、今回に限っては、普段意識しない場所に魅力を見つけて撮りたいと思って、私は歩きました。

#### — 写真を撮るとき、大切にしている事はなんですか

岡田：次々写真に関する質問がでますけども、大切にしている事はなんですか？

KIKI：大切にしていることは、たとえば太田のまちに来て商店街を歩いて、やっぱり最初の出会いを逃したくないというのはあって、下見とかしないで、まず歩いて、最初の新鮮な気持ちでハッと思ったものを撮るというのをすごく大事にしています。あとでまたここに来て撮ろうって思うと、不思議とこう、最初にドキッとしたものがまたくなくないっていうことが多々あって、それはどこに行ってもカメラを持っているときは気を付けています。

#### — 日常的にどのくらい写真を撮りますか

岡田：いつもカメラを持ってらっしゃいます？

KIKI：作品を撮ろうと思ってカメラを持つときは限られています。たとえば、旅に出るときや、写真を撮ることを目的に出かけて行く時はちゃんとカメラを持っていきます。あと、山ですね。日常はカメラをぶらさげていません。携帯ではよく撮りますけど。

岡田：例えば、アラキーさんは、自分が生きていることはどういうことかと仰って、いつもカメラを持っていて、ところかまわず撮りまくる。一日何枚撮っていますかって聞いたら、「一万枚くらい」とこの前言っていましたが、そういうタイプじゃないですね。

KIKI：違いますね。写真を撮ることを私の場合は日常にしたいくないとか、やっぱり写真を撮る事を楽しんでいたい。アラキーさんは常に楽しいのでしょうか、私はたぶん日常にしようとして、一枚一枚の重みが私の場合は減っていくと思って、限られたときに撮りたいと思っています。

#### — どのようなカメラを使っていますか

岡田：道具の話を知りたいと思いますが、どんなカメラで作品を撮られていますか？

KIKI：今日持ってきています。今回撮った写真は、このライカのカメラを使っています。

岡田：それはデジカメですか？

KIKI：これはフィルムのカメラです。後ろにモニターもありません。デジタルのカメラももちろん使いますが、フィルムのカメラがずっと手放せず、愛用しています。

岡田：今、フィルムを手に入れる事も大変ですしね。どんどんなくなっちゃいますからね。

KIKI：そうですね。フィルム自体もすごく値上がりしていて。ただ、一枚一枚を大事にしたいっていう話にも繋がります。もちろんデジタルで撮るときも同じ気持ちなのですが、やっぱりデジタルだと撮る枚数は増えますし、簡単に消せてしまう。それが行為として寂しいなって思っていて。フィルムで撮ってすぐ見られないとか不便ももちろんありますが、それを利点にして作品を作っていきたいなと思っています。

岡田：やっぱりフィルムには特別なこだわりがありますか？ 表現するうえでの質感など。

KIKI：いや、そんなにないですね。フィルムの種類はこだわってはいなくて、たぶんね、単純な話で言うと、自分が見たものがフィルムで撮った写真には近いというか、デジタルだと、写りすぎてしまう。そのあたりの使い方っていうのがいまいちわかっていなくて、フィルム特有の質感っていうのがあると思っています。

岡田：まあ、「味」なんですかね。

KIKI：そうですね、フィルムの「味」。自分の意思とは違うものがリンクされる。でもまあ、これはずっと使っているカメラなので、どうしたらどう撮れるかっていうのは、把握はしているつもりではあります。

## — 山の魅力と、写真との関係について教えてください

岡田：先ほど KIKI さんのプロフィールについていくつか申しあげましたけれども、もうひとつ大事なプロフィールがございまして、「元祖山ガール」といいますか。

KIKI：そう、「元祖」がついています。

岡田：日本全国だけじゃなく、いろんな山に登られる方で、山での写真をたくさん撮られますね。山と写真は、何か関係がありますか？

KIKI：写真を作品として発表するようになったきっかけが、山で写真を撮るようになったことにあります。

## <これまでの作品についての解説>

### 1：妙義山全景の写真

岡田：ずいぶん険しい山ですけど、これはどこですか？

KIKI：群馬にある妙義山です。ただ、一つ先に言っておくと、今日ここでご紹介する山の写真は割とスナップが多いです。

岡田：作品として撮っていないということですかね。

KIKI：そうですね、こういう山登りをしているという写真です。これは今年の5月に行ったときの山の写真です。



1

©KIKI

## 2：木々の写真

KIKI：山で写真を撮るようになったときから頻繁に使っている、オリンパスのPEN-FTというハーフサイズで撮れるカメラがありまして。ハーフサイズで撮れるというのは、たとえば36枚撮りのフィルム1本で、倍の数撮れます。ファインダーを覗いたときの横の構図の中に、縦に2枚入っているって思うと分かりやすいですが、そのカメラもファインダーを覗くと縦構図です。それが、カメラを覗いたときと、自分が撮りたいって思ったものの構図がすごく合っている。普通のカメラを縦に回せばいいのですが、その一工程がなくなるだけで写真を撮るのがすごくスムーズになって、ストレスがなくなって、それですごく写真がたくさん撮れるようになって。これもそのペンで撮ったものですが、それから写真にどんどんはまっていきました。



2

©KIKI

岡田：これお花が咲いているのですか？

KIKI：はい、山ツツジですね。

## 3：星穴岳の写真

KIKI：これは妙義の上の方にある、星穴岳という穴が空いている岩場です。

岡田：すごい山がありますね。

KIKI：はい。こういう場所はちょっと特殊なので、ガイドさんと絶対私は行くようにしています。



3

©KIKI

## 4：登山中のKIKIさんの写真

KIKI：笑顔です。こんな山登りもすれば、のんびり歩くときもあります。カメラを持って行くときはのんびり歩くことがほとんどです。

岡田：山の魅力って何ですか？

僕なんかは、あんな高い所まで登るのは大変、としか思わないです。

KIKI：でもこう、見えたところに行ってみたくありませんか？

岡田：なりません。

KIKI：なんででしょうね。山の種類によって、山の魅力って違うと思います。

でも、過ごす時間はすごく大切に、私は一人で山に行くのが好きというよりは、誰かと一緒に行くことが基本で、まちで過ごすよりも仲間と過ごす時間が濃密になって、それがすごく大切だなって。

岡田：過酷な環境の中で、長い時間過ごさなければいけないので大変ですよね。

KIKI：そうなんです。だから良いも悪いも出てくるけど、ずっと一緒にいないといけないので、なんて言うか、その人の良さも、ちょっと苦手なところも認められるようになるし、受け流せるようになるし、日常に戻ってくるとそういうことが身について割と楽になるというか。



4

©KIKI

## ー 太田のまちの印象はいかがですか

岡田：山の話はこの辺にしまして、今回初めて太田のまちを訪れていただいて、撮影をしていただいたりしましたけれども、いかがでしたか？ 太田は。

KIKI：やっぱり初めて訪れるということで、太田のまちについての知識はある程度は仕入れて来ましたが、歩いている人がとにかく少ないのは勿体ないなという…。

岡田：勿体ないですね。

KIKI：それこそまちの中に美術館・図書館ができて、これからこの駅も通り過ぎてしまう場所ではなく、立ち寄る場所がちょっとずつ増えていくかなと思いました。そういう場所がもうちょっと増えていったら楽しいのかなって。ただ、ひとつひとつのポイント、後で写真に出てくるとは思います、名だたる場所はそれぞれ魅力的なところでしたね。

## <市内で撮影した作品についての解説>

### 1：建築中の美術館

岡田：では太田で撮っていただいた写真をちょっとご覧いただきましょうか。こちらが建設中の美術館・図書館ですね。

KIKI：そうですね。もう、これは今見るできない姿ですね。今は覆われて、色が塗られていましたっけ。

建物はできてしまったら完成で、途中の姿って見えなくなりますが、できてからも、周りの緑が増えていき、人が行き来したり、風景って変わっていくと思うので、変わらないと思う場所を目にとめて見てもらえたらいいなと思って撮った一枚です。



1

©KIKI

### 2：建設現場を覆うパネルの子どもの絵

岡田：これは何ですか？

KIKI：これは工事中の美術館・図書館の仮囲いで、これは小学生の作品ですか？結構ね、じっくり見ると面白くて、自分の好きなものを描いている人もいれば、やっぱり太田を象徴するようなものを描いている子どももいたりしました。これもね、そのうちなくなってしまうもの。



2

©KIKI

### 3：北口商店街アーケード

岡田：これは北口の商店街ですね。

KIKI：味があり、相当良いですね、みんな。勿体ないですね。

でもここに人がいたら、写真にならなかったかもしれない。

岡田：そうですね。シュールですね。



3

©KIKI



#### 4：街灯

KIKI：古い照明なんかも残ってほしいですね。

岡田：今作ろうとしても作れないですよ。

KIKI：そうですね。



4

©KIKI

#### 5：猫のいる風景

KIKI：まちかどの猫。先ほどの商店街の中ほどで出会った猫です。

一匹ちよろちよろっと走って行くのを追いかけて入っていったら、奥にたくさん家族がいました。場所としては綺麗かって言ったら、全然綺麗じゃない。ちょっとゴミも散らばっていて、廃屋のような人が住んでいるのか分からないような建物が立っていたりするんですけど、そういう場所も美しいというか、はかなさがあります。



5

©KIKI

#### 6：焼きまんじゅう

岡田：美味しそうですね。お昼ご飯の前にね、食べましたね。

KIKI：これ、美味しかったです。お腹いっぱいになりました。

群馬の方、焼きまんじゅう、みなさんよく食べられていますか？最初食べたときは衝撃で、何が衝撃かっていうと、おまんじゅうっていうとモチモチってしているものを想像してしまいましたが、ふかふかしている。とにかくボリュームがあって、一人一本ずつ頼んでくれる豪快さが群馬の人なのかなと思ってすごく嬉しかったです。



6

©KIKI

#### 7：やきもち屋

KIKI：それで、いただいた焼きまんじゅう屋さん、山田屋さんというお店だったのですが、ショーウィンドウの中に昔の写真が飾ってあって、たぶん見る人少ないかなと思いますが、その山田さんが左上の方に写っていて、右手前になぜか戦車があって、そこに女性や子どもが楽しそうに乗っているという不思議な、貴重な一枚ですね。こういったものを撮れると面白い。



7

©KIKI

## 8：子育て羊羹の看板

KIKI：もうひとつ「上毛かるた」という存在を知って。

岡田：このエリアにしかない「かるた」なんですね。

KIKI：「太田金山」から続く言葉わかりますよね。

来場者：子育て呑龍

岡田：え？そうですか。

暗記していて、それぞれの土地の特徴がかるた

になっているのですね。でもね、言葉、フレーズだけ暗記  
していて、子育て呑龍が何だか知らないって前橋出身の夫  
が言っていました。「太田金山子育て呑龍」は、太田には  
金山と、その山のふもとに呑龍さまというお寺があるということ。

岡田：この羊羹は何ですか。

KIKI：これは、お店はもう、なかったですけど、看板だけこのとき見かけて。この看板は実は珍しくて、  
メッシュというのか、金網に文字がついています。こういう看板は海辺に多いです。風が強いところ。  
それで、聞いたら太田も風が強いそう。

岡田：そうですね。

KIKI：赤城おろし。

岡田：かかあ天下と、からっ風って言うんですかね、確か。

## 9：幼稚園の柵

岡田：これはまた、メッシュの看板。

KIKI：メッシュの木漏れ日ですね。



8

©KIKI



9

©KIKI

## 10：誰もいない場所

KIKI：大光院に入っていくところに、すでに閉園している幼稚園が  
ありまして。

岡田：通われた方いらっしゃるんじゃないですかね、きっとね。

KIKI：この建物もね、すごく素敵だなって思ったんですけど。

こういった場所も写真のモチーフとしてももちろんですけど、  
またなにか形を変えて使われていたりしたら面白いんじゃないかなって思いました。すごく素敵です。



10

©KIKI

## 11：子育て呑龍

岡田：これは？「呑龍上人」と書いてありますか。

KIKI：そうですね。これ、軒下にかかっていたものですが、光がすごく綺麗に当たっていますね。光って目に見えないものなんですけど、光がないともの写真で撮りたいなと常々思っていました、この文字の羅列を撮りたいというよりは光を撮りたいと思って撮った作品です。これは展示中の一枚です。



11

©KIKI

## 12：甘露水の井戸

岡田：光の神様がいっぱい写っている感じがしますね。

KIKI：そうですね。

岡田：これは井戸ですかね。

KIKI：これ何ですかね。

岡田：甘い露の水って書いてありますね。

KIKI：祀られています。



12

©KIKI

## 13：金山城跡ガイダンス施設

KIKI：これは隈研吾さんが設計されているそうです。  
地域交流センター、お城の麓にあります。



13

©KIKI

## 14：金山城跡石垣

岡田：これは素敵な石垣ですね。

KIKI：ね、素敵ですね。



14

©KIKI

## 15：城への道

KIKI：これも金山城跡ですね。こういう道もね、今自分たちも歩ける道なんですけど、昔の人も歩いていたと思うと、急にロマンチックなものになるんです。



15

©KIKI

## 16：売店の記憶

KIKI：これは金山城跡の上の方にある鳥居と、そこには売店があったようです。火事で焼けてしまったようですが、その遺構が残ってしまっていて、何て言うか、なくなってしまう方がいいと思う方もいるかもしれないし、こういった過去の跡が残っているのも、捉えようによっては魅力的なものだと思います。

16



©KIKI

## 17：島岡酒造の看板

岡田：よい造り酒屋ですね。

KIKI：そうですね。ここだけはリクエストで連れてきてもらった場所で、島岡酒造という酒蔵です。

KIKI：今、お酒を作っていない時期ということなのでお願いして見学させていただきましたが、趣味がよいご主人ですよ。

岡田：そうですね。

17



©KIKI

## 18：酒蔵の様子

KIKI：これは、ご主人が子どものとき最初に編んでもらった雪靴だそうです。だんだんと大きくなっていったのが、何となく飾ってあって。ここの酒蔵は昔の作り方やいろいろな趣向を大事にしてくれていて、味も今流行りの水のような洗練されたというよりも、どっしりとした味わいのあるお酒で、私もすごく好きなんです。

18



©KIKI

## 19：お酒の神様

KIKI：樽の上にちゃんと神様が祀られていて、お蔵の造りも昔ながらの造りだったので、すごく味わい深いところでした。

19



©KIKI

## 20：形のちがう棒

KIKI：これもお酒を樽の中でかき混ぜる道具のようですが、すごく長い柄がついていて、先の形がそれぞれ違って、その樽の状態に合わせて、対象が柔らかいのから、丸いのからと使い方を変えて、ご自身で作った道具らしいです。

20



©KIKI

## 21：島岡酒造の裏手

岡田：虹が写っていますね。

KIKI：はい。こういうのもね、光が綺麗。ご主人、「汚いから撮らないで」って言われてたんですけど。

岡田：汚いのが撮りたいんじゃないんですね？

KIKI：そうなんです。綺麗なんです。

21



©KIKI

## 22：夕暮れの早川

KIKI：これは利根川に流れこむ早川の河川敷です。まちの建物がある所ばかりではなくて、自然があるところにも足を延ばしました。

22



©KIKI

## 23：プラットフォーム

岡田：太田駅ですね。

KIKI：はい、この日最後の一枚です。太田駅のプラットフォームです。

岡田：これは撮影が終わって最後の一枚ですか？

KIKI：そうですね。電車を待っているとき、とにかくこの日はお天気がよくて、日差しも強かったんですけど、とにかく夕暮れ時が綺麗で、階段登って来たらすごく美しかったので、ホームの端に行って撮った一枚です。

23



©KIKI

<再び質問へ>

— 今回の展覧会の構成の意図を教えてください

岡田：ちょっとあまり時間がなくなってきてですね。

KIKI：構成の意図は展覧会を見ていただければ。

岡田：そうですね。とにかく、今日ご覧いただきました写真にあります通りで、光のありかみたいところをすごく上手に KIKI さんらしく切り取ってらっしゃるなという感じがすごくしました。よい写真を随分撮っていただいて、ありがとうございました。

KIKI：ありがとうございます。

— 公募展の写真について、感想をいただけますか

岡田：実はこちらのトークショーが始まる前に、KIKI さんには展覧会場に行ってくださいまして、公募された作品の中から KIKI 賞を一枚選んでいただきました。

小金沢：市長賞、KIKI 賞、オーディエンス賞と、美術館・図書館賞と、いろいろな賞があります。

KIKI：オーディエンス賞は、みなさんこれから見て、応募できるのですか？

小金沢：はい。会場をお願いしておりますアンケート用紙に、お気に入りの写真の作品の番号を書いて

いただきます。是非これから行かれる方は、こちらの方もご参加いただけたらと思います。

岡田：ということで、今日は発表できませんが、ご覧いただいていたか？

KIKI：そうですね。かわいい猫の写真がたくさんあって、結構迷いましたが、「まちかどの猫」というタイトルにもなっている今回の展覧会のテーマがあったので、まちかど感のある一枚を選ばせていただきました。

岡田：どれでしょうね、楽しみですね。発表を楽しみにしていただきたいと思います。

#### 一 今後、太田市美術館・図書館に、期待することはありますか

岡田：最後の質問ですね。我々からすると、また開館したら是非遊びに来ていただきたいなと思いますし、また一緒にお仕事できたら嬉しいなという風に思っております。新しく開館する美術館・図書館に何か期待されることがありますか。

KIKI：そうですね、私自身、美術館・図書館ができていなくてもまた来たいと思っておりますが、ここを目当てに太田に来たいと思わせる施設になるかと思います。友人を誘って東京から、他の土地から人がいっぱい来るようになったらいいなというのと、あとはやっぱり、群馬県内、太田の方たちが利用して楽しい場所、太田フォトスケッチのような楽しく参加できるようなものが色々企画されていったらいいなと思っております。

岡田：はい、ありがとうございます。冒頭で小金沢からも説明がありましたけれども、市民のみなさんと一緒に作るということがこの館の趣旨ですし、このまちで子どもたちが育っていったときに、この施設であれを見たよ、これを見たよ、こういうことしたよ、というようなことが、ちゃんと思い出に刻まれていくようなそういう施設にしていけたらいいなという風に思っています。

#### <閉会へ>

KIKI：ありがとうございました。

主催者：KIKI 様、岡田様ありがとうございました。楽しい時間を過ごさせていただきました。まだまだ KIKI さんのお話を聞きたいところですが、KIKI さんと岡田さんにおかれましてはここで退席となりますので、みなさん大きな拍手をお願いいたします。

(拍手・KIKI 氏、岡田氏退出)